

百八町記

二



門 89
卷 2

百八町紀卷第二

○わふ儒^{もぐや}字^し名利^{りき}はしていそ^{ちやう}けは^ひな^{ゆき}を^ふん^んの^ん統^{ちう}
とに^ちり^りの^り又^{また}海^{かい}去^き地^ちと^さな^なり^りと^りつ^つと^とも^もた^たり^り
い^いは^はり^りの^り高^{かう}統^{ちう}統^{ちう}を^をり^りの^りと^とも^もた^たり^りと^とも^もた^たり^り
一^一と^とも^もた^たり^りの^り高^{かう}統^{ちう}統^{ちう}を^をり^りの^りと^とも^もた^たり^り
を^をり^りの^り高^{かう}統^{ちう}統^{ちう}を^をり^りの^りと^とも^もた^たり^り
一^一と^とも^もた^たり^りの^り高^{かう}統^{ちう}統^{ちう}を^をり^りの^りと^とも^もた^たり^り
と^とも^もた^たり^りの^り高^{かう}統^{ちう}統^{ちう}を^をり^りの^りと^とも^もた^たり^り
そ^そと^とも^もた^たり^りの^り高^{かう}統^{ちう}統^{ちう}を^をり^りの^りと^とも^もた^たり^り
并^{へい}よ^よ愛^{あい}校^{かう}の^り理^りと^とも^もた^たり^りの^り高^{かう}統^{ちう}統^{ちう}を^をり^りの^りと^とも^もた^たり^り

百八町紀卷第二

百八町紀卷第二

[illegible][illegible]

りばなりそ乃親^{ちか}父^ふ親^{せう}あひつよなりばあし人^{ひと}親^{せう}をり
 とつとをもさるの云理^{ことわり}いハゆきれ也こもこれの勢^{いきさ}い面^{めん}
 とはくさより下^{した}との主^{ぬし}也面^{めん}ハ勢^{いきさ}とあつ起^{おこ}するもの司^{つかさど}是^{この}電^{でん}
 いまやう
 形^{かたち}一^{いつ}氣^き專^{せん}走^{そう}をよむ威^い光^{こう}勢^{せい}風^{ふう}をあらうこそあり
 まうせん
 て極^{ごく}電^{でん}大^{だい}面^{めん}ありけ親^{せう}すかりハ儒^{にう}同^{どう}知^ち也何^{なに}ぞつら
 と多くしらくるその電^{でん}風^{ふう}面^{めん}のおもふも一^{いつ}何^{なん}もの機^きめ
 とねふをわかれすかり天神^{てんじん}乃^の目^め能^{よく}也何^{なん}ぞそのも神^{かん}
 とた何^{なん}やうの云^{ことわり}とみふぎや天神^{てんじん}ハ無^む相^{さう}ありておとな
 とめおとすの元^{もと}人^{ひと}眼^{がん}力^{りき}乃^の多^{おほ}相^{さう}よわびらと勢^{いきさ}毛^{もう}乃^の除^{おろ}
 まめがぶみ理^{ことわり}くのくと大^{だい}面^{めん}能^{よく}也こもこれの面^{めん}勢^{せい}風^{ふう}の所^{ところ}
 しらん
 雲^{うん}をよはしくおもふの氣^き氣^きあへば面^{めん}面^{めん}電^{でん}風^{ふう}乃^の時^{とき}ハ毎^{まい}日^{じつ}を

[illegible]

下れり子ありて大陽陰礼うれの運はあれども天と
つとむるふとみか天を因果のむくひありされん人
ありて何れもむくひを創ておるふか孔子夷狄の命あり
つとむるふとみか天を因果のむくひありされん人
子推の命ありて長命を運する大城を運する
存るやむくひを安んずるに望みかかたなり重威
つとむるふとみか天を因果のむくひありされん人
秀吉のこゝろ雄礼うれとむくひありて大城を運する
とむくひを運するふとみか天を因果のむくひあり
ふとみか天を因果のむくひありて大城を運する
とむくひを運するふとみか天を因果のむくひあり
とむくひを運するふとみか天を因果のむくひあり

乃ちを撰るふとみか天を因果のむくひあり
陽春の理ありとむくひを運するふとみか天を因果の
因果のむくひありとむくひを運するふとみか天を因果の
とむくひを運するふとみか天を因果のむくひあり
般の封をよめとむくひを運するふとみか天を因果の
あれを運するふとみか天を因果のむくひあり
ば一生のむくひを運するふとみか天を因果のむくひあり
とむくひを運するふとみか天を因果のむくひあり
報と下

移より儒学をわたりて天命と云ふその天命
天命の理ありて同じくも夏秋を陰陽を果を

といひて物親とあるを乃にすからしせいけん望望とて思
 おきとてその言葉次第の如く何もの司主親の
 やとふ事親とあるに唯古人乃に望望あれといふて天
 なる命を親とたふに極みあるゆきこそ乃のこそ御
 つまの物とのもありと御ある何とてつとつゆき
 がとふ事来乃親とあるがうきとて又因果を
 親と儒家よあるも孝子よ曰く吾今より後人の
 親とらつと乃に望きとて親也人乃父とらつとば金
 たその父とらつと人忠兄と親をば人と示う乃
 兄とらつと親とすからしつとてこそとらつと
 よあるやとありは親より金とされ他父兄とて

教を以てて我が父兄と依りて之を教ふべしと必
 定ありて之をすふりて仁は乃教因教果は理
 由ありては仁と義とと徳とと軍書と教は之
 ともなりて生人ありてその終よりて残骸の政と
 累世ありて徳と文とありて之を以てて又之を世
 にも金將馬義の類あり孔子は陽虎おのれ
 りて因果因のたえり一年十二日二百六十
 ありて命ありて

[illegible]

のとまゝにありて、
 子乃^こありて、
 まれ^まにありて、
 暗^{くら}とありて、
 大小^{たう}のありて、
 人^{ひと}のありて、
 少^すてありて、
 忍^{しの}びてありて、
 わ^わが^がありて、
 悲^{かな}しむありて、
 とありて、

いんやいんのお親國事子秋實としてまゐる一歳
は乃そまゐる秋實乃時秋實とむいりりといふを
すを國家と補ひ金堂ありしひ乃大徳ありぬい何
とむいりてむいりて天家よりじん天神よりく擁護
感喜うといふ儒教道世のはゆき若きよきまじり
ひのまゐる親ま家事子秋實としてまゐる一歳
あゝ一歳といふまゐる一歳とてまゐる秋實の種とて
のまゐるこれすかゝるまゐる天令もまゐるまゐる天
地運家よりこのまゐるまゐる秋實とてまゐる一歳
乃のまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
を利運まゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる

あゝあゝまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
秋實とてまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
とむいりてまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
お家事子秋實乃秋實とてまゐるまゐるまゐるまゐる
下國秋乃秋實とてまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
のまゐる樹下まゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
あり秋實とてまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
月ひとまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
あゝあゝまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
島國の秋實とてまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
かゝるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる

理のけ理と動弁を利利とていふに
わさけりるを西は正しとて海國の大島家也とて世の
氏より大いなりふははと情も一大陸大智あると利能
續金玉乃堀求むる若き事ありあり然る衣服飲食
吾輩の財貨とていふかゝる大面理いふお知るべきにわ
らばとて海國の利利とていふ運理とていふは理とて
しつゝのさむんといふは般乃陽主の事結討まうとて運ふ
なるなりとて乃親族乃大居る箕子堀子は千の三聖人
何そあるや胸とていふれ或るぬとあり或は流軍とてや
いふ人の大居大居人也幸ふ二門乃棟梁あり國をたす
ハ懐きありとて天下の力民を討まの運は飽とていふ

今一は河也なりあるいふとて正お結とていふ討まを運
とて或る流利とていふとていふとていふとていふとて
とて正お結とていふとて正お結とていふとていふとて
し一人正作とていふ或る今とて正お結とていふとて
一般乃代とていふお結とていふ正家よは子孫とていふ
後とていふある大ありとていふとていふとていふとて
家とていふとていふとていふとていふとていふとて
も天正十二年結候ハ人吏官人十二人下民一人とてい
り也結とていふとて正お結とていふとていふとていふ
とていふとていふとていふとていふとていふとて
れるいふとていふとていふとていふとていふとて

つい居るてあると親族と云ふ事仁義ふあつたと
 いふ御い義主は居あれと封主と云ふわあは周
 い兄弟と付かりかきあすつらんは賢い天下方氏
 然るとも通達をたと縁して主を親族は八
 利はと云ふと云ふらんはと云ふつて思
 子十二后流候八端も実世に二高の定はわ
 妹と居する事もあはれはと云ふはと利
 云らんふあれはと云ふと云ふと云ふ
 よい姉妹と云ふと云ふと云ふと云ふ
 の父母と云ふと云ふと云ふと云ふ
 つて云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

子あつて何のいふ也とありとありと云ふ
 生ねよ子あつて天をあらわんと云ふ
 理あつてと云ふと云ふと云ふと云ふ
 何日心氣あつてと云ふと云ふと云ふ
 と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 是大なるつてと云ふと云ふと云ふ
 ああ女子二人と云ふと云ふと云ふ
 云つてと云ふと云ふと云ふと云ふ
 して作らるる夫と云ふと云ふと云ふ
 と孔子も難と云ふと云ふと云ふと云ふ
 ありてと云ふと云ふと云ふと云ふ

といふ大徳道乃利賊ありとけの利はるゝといふきむ
 りしそは人の子ありて相さういふと云ふ所の義を長
 命と云病なりとて天を自然なるを利はるゝといふ
 自然なるの理ありとてこの大徳は信をよき道なりと云ふ
 一利ありては信を大に得ぬといふことと云ふ
 鼻と利はるゝ利はるゝと云ふことと云ふと眉目
 と云ふ事ありて天を大徳と云ふことと云ふ事あり
 佛と云ふことと云ふ一徳を刀は信はるゝことと云ふ事あり
 天
 家よりいふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 と云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 と云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 の云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと

いふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 すふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 氏ありと云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 西と云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 一人は信と云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 と云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 属満足と云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 といふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 利ありと云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
 みふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと

移る愚来これに依りてはくもあつらんわりの甜父母也
おやとすゝくーいといふのん
 親於資成を貴しき理をきいて奇思へを爲真
よりやうかんこ
 実非愚者ともあつれども今思ふごとく又つくもまじ
 おんすりにあつるもの同するハ大舞ハち者の人ニ
まぢん
 去るに舞乃父要道と云一天下のはなを破らん時
いそぎこトぶさつて
 案すむから天下にはおもひなり人あれど父と子
ふいふか
 とく花柳は物とありべんハあらざるはほと儼然わん

身ふゆふ金金金守治ありき一聖賢ハ侍子と云
 けし侍親者おけありきもみふ聖人ありき二百
 聖賢親微孔のこけありきもみふ聖人ありき聖賢
 ハ大徳の人ありけり誠貪慾邪淫利ハ乃儒を去
 割ハ傷るごとく聖賢乃通世と應ずるべき友
 大徳と云ふものしんとなすのたふありきんやと云
 乃儒を去る通世徳者乃名実利害を離るるふ
 高徳大徳と云ふ徳心るも一ふあまふと云ふ徳一
 の徳徳大徳なりと云ふ徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳
 ありて聖人ハあり大聖人と云ハ徳儒ともふ徳あり利は
 よわつては徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳

六、くけい程子と見えしるに舜乃子也
 乃るふあはれはこも天也とあり孔子の終りも庶
 八、程子段周は終りその義一也とありかやうの大徳文
 あつたとやうな儒者志ハ知らるやとまてりや但馬橋
 やて朱氏の最後よりやといふるをたもとハ浅きこと
 ありあらふは服と指見してつとゆくとかなるや世間
 大小人ともみとりつと仇と成なり武田信玄はつと
 づつ武將あましくと云ひなり好む小なりと勝頼といふ
 魚子と海りを武田家代家と破賊をり勝頼あくまで
 長氏康永乃事子るつと國系お續いてめどたりん
 又程子朱氏若しこれ端なりて運子朱氏ともわけを

氏と破^ク滅^クきり秀^い頼^てあ^ハハ幸^{さい}ハ^ハ法^{けつ}中^{ちゅう}納^{なつ}天下^{てんか}相^{さう}
 續^{ぞく}あ^ハる^ハぐ^ハさ^ハあ^ハる^ハ今^{いま}よ^ハき^ハ氏^しハ^ハ天^{てん}下^かを^ハ人^{じん}を^ハけ^ハ如^{ごと}
 農^{のう}之^し高^{かう}る^ハ今^{いま}を^ハ子^しあ^ハりて^ハ仇^{あう}を^ハさ^ハりし^ハけ^ハ能^{のう}む^ハ
 是^{こゝ}乃^{こゝ}つ^ハあ^ハで^ハよ^ハ書^{しよ}付^ふふ

○あふ人いつにほはるるをたのびていあふもすもあふといひ
あふふ来の富貴とては後世のさつまいと稱ふさうい
さうあふやゆぞとる人の安あふとてはゆ白乃熱音を驚く
くあふとて驚くつてさうとあふくあふに用すくさふあふは
て曰ふづうくあふとあふりて理也と知下たふあふは
とさういひてとあふあふとあふふふふふふふふふふふ
やとあふのあふとあふのさうあふふふふふふふふふふふ

[illegible]

位とうをさぐれえ万民と下小續ちやまの事親ととるやう
 二五天然の富をみめて中令つてあく然若仇災あ
 まく無逆うたてふ人の死飛海刑禁獄枯同とくふ
 うう是天然の事よはく飛をさぐるとして是萬民
 うにみうと海をさぐらふ或は果る功徳よはくや中其
 せのふあまどもも成徳を乃よ法をさぐるとくふ富をい難
 根のなほ雲風露のじし事ようく十月の祝ととる十
 もれ括とこる飛をさぐるとしてあぶとわりその方傷事成
 足かぐやうの理よと人啼くして育の事と換ふかこ
 されば神に現生二生をさぐるとの修徳也わうあよ心魂を
 のら禁と成徳のわちとあつととてとけは括とこれ物縁

とありと憾とさぐれえその心免にねな生と同一なりわう
 あり現生是月の人ふ事世樂也現世世りの人ふ事
 うあは苦患なり現世の心魂事世の心魂とて心免よと
 あけは心免と神に現生に修徳をさぐるとしてあぶと
 括應わうとふた人ハ形神にあらうと心免へ主人のじ
 何かどうとさあねた主人とてあけはとる家たら
 まは此破壊とらうじに形神にあらうと括應とも心魂ハ括
 と憾とて現世事世は通徳とてその現世よとて是苦患の
 現とあひとあふまは形神の果とあふ心免の果とあ
 とるあはは神の勅命とて人みあふて形神よの痛と
 痒とて神の苦とてあふとあふとて是苦患の苦患何

むんとおやがりてとて苦患よ苦患と増長と作
 まば現世よといて其患一疾と痒と定現苦患とあ
 りて其患といひををぐんと欲とつてもあらば形神の
 うふよわに心養うるふあ也その健捷よ心養と作
 相と成実て見よ痛とてとあといふてはうごき
 ろうぞくあつてふに寝入る時心養と目どやうな
 せと心養神の心は体とてあつてあよあてすかり同
 是痛とあつて神は形神に現世一生心養のあ
 ふ形神あつてあ世の苦患とけど機を成とあり理め
 本とあつてあ世とけ形神は神を成と成計と成
 金一武と成神よといてあつてあつてあつて又平

礼をあらわすとすといはれ形神と我とのあつて
 あつてい神とあつてあつてあつてあつてあつてあ
 常神あつて神の心養とあつてあつてあつてあ
 り神神とけつて形神とあつてあつてあつてあ
 ゆうい神とあつてあつてあつてあつてあつてあ
 神の心養とあつてあつてあつてあつてあつてあ
 男女倍倍つてあつて形神とあつてあつてあつてあ
 あつたあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 とてい神とあつてあつてあつてあつてあつてあ
 男一火とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 けつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

有りて縁起と推がじし人るの十劫九ろね敷るに佛
 現すと人る事ひらうて実の唯この死するのふ
 とい実ひてうりあしとみんたに十二時中ゆら
 ちくちを憶ふとてふたの一事也又死と知るにやと
 何の事世捨移来の死来あんど利はあをさるれど
 その何れ其世捨移来の死来すかつら其世の死来より
 是何人うやとう現世其世一せ一身の理とあふま
 五時よはふありあふとて死すあつら精とてう
 づとつとあふ心就あふい其世のゆとを形神あ
 はる乃形神の早貴若患とてうとてふとあつら心は
 お也と無相の候あつらあつとや神あつらあつとあ

早貴とてうとて言て白く無相の理とあふ其のあつら
 家とあつた人とあつらあつら心は無相あつてあつら
 あり候よひつてあつら神愿候とあつらとあつらとあ
 ありあつらあつらあつらとあつらとあつらとあつら
 而も早貴とてうとて言てあつらあつらとあつらとあ
 何れ若患あつらとて言てあつらとあつらとあつら
 ごとくは神は若患とてうとて言てあつらとあつらとあ
 とて言てあつら神はあつらとて言てあつらとあつらとあ
 他もあつらとて言てあつらとあつらとあつらとあ
 神あり現世の神は現世の神とあつらとあつらとあ
 てゆとてあつらとあつらとあつらとあつらとあ

地をゆく地を小く地をわたりてあつて今
世もハ他國（い）といふのふとくびおのりあつてこの現を
乃持つめを持運（い）つる言を白くは家と地をへこ
おも舟車馬牛と用ひつては地をくつてふとん
は持てまゝも世よりあつて舟車馬牛の寄
の後乃支度わては方便なつては現世なるを
の若根（い）の也若根（い）のあつて是處大所若根（い）
どは持てまゝも世よりあつて舟車馬牛の寄
乃同（い）今日の安とせどて明日の若根（い）とあつて
然（い）とてふもたつては現世なるを
おれ業（い）初（い）とせどて是處大所若根（い）

わがり同（い）とてふもたつては現世なるを
とてふもたつては現世なるを
持（い）とてふもたつては現世なるを
て家と持（い）の國と治め天下と安くとてふもたつては現世なるを
くハ持（い）とてふもたつては現世なるを
持（い）とてふもたつては現世なるを
度（い）とてふもたつては現世なるを
持（い）とてふもたつては現世なるを
の持（い）とてふもたつては現世なるを
あつては現世なるを
と持（い）とてふもたつては現世なるを

有り佛を衣を乃たたき鳴の祥は金月を御如席
よ玉後とありてありて然に人何ぞいふ初のも香
うあひびさめあ時まあ心と天此慈福れやうくを
おきり

初は白史紀漢書と被見とふは教養と云く鬼籍
と云くとつて後をわつてゆは鬼籍を飛せ
ふ鬼籍を恨ふふてあててすあつて生を
くうのひひとてと教養ハ初とてつて生を
りてまは鬼籍ハ面痛とてつて生を
初云が勝とて飲食笑談のふびくは苦痛を
痛治もつてふたやまを吟せうとわの史記

事ハ儒者の学流ありてつてり毛氏ある事とふ
よ如くのもつてありて儒者志強ずるは初とて
ありて苦の初ハ又学は此初ハ初とて
天此初ハ初とてありて又いふは初ハ初とて
これより初とてありて初ハ初とて
天の初ハ初とてありて初ハ初とて
初とてありて初ハ初とてありて初ハ初とて
て天とて初ハ初とてありて初ハ初とて
初とてありて初ハ初とてありて初ハ初とて
初とてありて初ハ初とてありて初ハ初とて
初とてありて初ハ初とてありて初ハ初とて

日ハ天神より月水神より星ハ万物ノ神也何なり
 日月星といふこととていつては神といふこと
 字もあふしやうの比立ハ其神ハ形ノ四神とてい
 うも信多しあふことよわはされハ天ノ神のた
 しまたいつても無相ノ神あれと云ふも
 多しとてあふれと我ノ国よかん事あること
 出とて天神を見ても事ありとて天よ
 神よりすやあふ地成るとて面といひ
 熱しとて風吹あふとて面流るるが
 乃神のあふれも凡そハ天神より海と信と
 らざるもいつて何ぞ無相ノ神といはん天神ハ

かなに何なる時ハ神と現る何なる時ハ
 地より種ノ万物ありて天よあふ万物也天神
 なるも是とつていつて天よけ万物さハ何
 地トよあふあること天ハ父也地ハ母也父さハ何
 なること一理とつて天ノ無相ありて
 事合ふこととてそのうハ信事ハ天通天教とて
 天これ何事とて天ノ神ましくて万物とつて
 死生を大上下とて信事ハ天通天教とて
 何なりされとて信事ハ無相ありて
 凡そ乃智同ハ及び目あふとて耳さ
 いふも天ノ神のあふとて何んや信事ハ

